

相野谷中分水界から大川瀬ダム

第 184 回武庫川エコハイク
2022.9.10 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 相野駅 藍本駅、広野駅と共に明治 32(1899)年当時の阪鶴鉄道の三田駅から篠山口駅間延伸により開業。三田テクノパーク、丹波篠山市今田への玄関口。

相野 往古応神天皇と従臣らがこの地で会ったことから相野となったという。

大龍神社(だいらゆうじんじや) 大龍大権現を祀る。慶長年間(1600 年ごろ)に建立されたが、その後変遷し昭和 62(1987)年に大鳥居、狛犬等が新しくなった。大正 8(1919)年に完成した羽東川発電所の建設のためこの神域の大木が売られこの地区に電灯をともしたという。

相野川 西相野に源流を発する武庫川の支流、広野で武庫川に合流する。起点は JR 相野駅の藍本駅寄りの JR 線沿いにある。延長 4289m の 2 級河川。河川は 3 面張りの上堤防の法面までコンクリート張りの「5面張り」草刈不要の人工河川である。

武庫川と加古川(東条川)の谷中分水界 武庫川と加古川の支流東条川の谷中分水界は相野北部にある。これは上流田松川の谷中分水界と同じく対応する河川の河川勾配の大小によるものと考えられる。川の名前に「加古川」とつけられた小川が東条川とつながる。相野川の河川勾配は緩やかで、対する加古川は池尻川となって東条川に注ぐ。東条川は三田市大川瀬地区にある大川瀬渓谷(県立清水東条湖立杭自然公園)があり、河川勾配の差が大きい。大川瀬渓谷の上部には国営大川瀬ダムがあり、農業用水、水道用水用のダムである。また藍小学校南の JR 線沿いに武庫川と東条川との谷中分水界がある。

藍浄化センター 三田市の汚水処理場施設。使用開始年度 2000 年。現在改築工事中。

鳥帽子ヶ池(えぼしがいけ)・池尻川 西相野分水界で別れた水は、三本峠麓を通り鳥帽子池に注ぐ(加古川と名前がつく)、池から池尻川となり東条川に注ぐ加古川水系。昔利用した運河の形跡が残る。

東播用水路 川代と大川瀬ダム水を東播地区に送水する水管橋(開渠)が県道をまたいでいる。

清水東条湖立杭県立自然公園 虚空蔵山(こくぞうやま)、大川瀬渓谷がある地区は清水寺(きよみずでら)、立杭(たちくい)を含む県立自然公園になっている。

大川瀬ダム 兵庫県の東播広域水道事業の一つ。川代ダム(篠山市・篠山川)、吞吐(どんど)ダム(三木市・志染川)の三つが一体となって東播地区の農業用水、上水道を供給している。これらの施設は農林水産省が直轄管理を行っている。コンクリート重力式ダム。昭和 45(1970)年着工、平成 3(1991)年完工、平成 4(1992)年使用開始。堤高 50.8m、堤長 164m、貯水

量 815 万トン。加古川水系の川代ダムより引いた水を加古川水系の鴨川ダム(東条湖)、山田川の吞吐ダムに地下水道で送水している。大川瀬ダムの建設で上部の大川瀬渓谷が失われた。大川瀬渓谷は白髪岳南麓四斗谷(しとだに)を源流とする四斗谷川が合流する地点を中心に約 3 km の V 字型渓谷があった。四斗谷は米が 4 斗しか取れなかったことからという。

東条川 1 級河川加古川の支川。篠山市今田町に発し、加東市を経て小野市で加古川に合流する。池尻川を経て武庫川の支流相野で谷中分水界を持つ。この谷中分水界を利用した武庫川(曲り)・東条川をつなぐ運河があったという。

大川瀬 旧有馬郡。加古川水系、支流東条川の流域。三田市で武庫川流域でない唯一の地域。地名は地形によるといわれる。

戎神社 由来は不詳、大川瀬はすべての面で播州と深い関係があり、戎社も東条町天神戎の末社。もとは旧住吉橋老杉の森に鎮座されていた。昭和 38 年道路拡張工事で現在地に移る。

大川瀬住吉神社 かつては神領地 10 万坪を持つ大社であったが現在は大川瀬の氏神である。**本殿**は三間社流造(さんげんしゃながれづくり)、椋皮葺(ひわだぶき)、文永 2(1265)年播州大工日原氏の手で建立された。県下にある住吉社の中で最古といわれる。古風を残す簡素な朱塗りの建物、**国指定重要文化財**である。**舞殿**は入母屋造、茅葺、長床から橋掛りを通して舞殿に入るようになっている事、後壁が鏡板になっている事などから能舞台に改造されたことがわかる、**県指定文化財**である。**住吉社領山四至井造替諸役差定書(市指定文化財)**。摂津国住吉大社は文永 2 年 11 月に社殿造替に当たって、神領の村々へ諸役を賦課した。大川瀬の住吉社は東播から丹波地方にかけて分布する神領の中心的存在であった。

大川瀬渓谷(大滝) 渓谷の上部は大川瀬ダムとなった。滝は、高さ 5m、滝つぼの深さ 6m という大滝の淵は「底無し淵」といわれるほど深い。

観音寺 真言宗。本尊は十一面観音菩薩。所蔵する大般若経 200 巻、卷子本仕立木版摺の奥書に「摂州有馬郡大川瀬村氏宮の御経也式百巻は宝永年中(1711~)之を求む」又「永享八年(1436)十二月十三日大願主明俊、真子」「慶長拾八年三月七日高仙寺常住祐海、金善坊」と伝来してきた由緒の分る墨書がある。尚仏殿裏の新墓地に力士碑が並立している。

力士碑 国技といわれる相撲の歴史は古代からといわれるほど古い。近世になると各地の大名たちはひいきの相撲取を雇い、江戸と大坂とに分かれて自分のお抱え力士に相撲を取らせ自慢し合ったという。大川瀬には 4 基の力士碑が残っている。大坂相撲の親方枝川藤兵衛の門下と思われる小枝川、二代目小枝川の他金枝・関ヶ浜などで何れも門弟が建碑している。三田市内に現存する力士碑は 25 基を数える。

行者像 7 世紀末、大和葛城山中の修験者役小角は山伏行者として修行し、山中で得た靈力を以て祈禱・予言をよくしたという。のちに全国の高山で道場を開いたと伝える。「大峰山回峰」はその一つ。市内でも盛んに行われ、役行者像をまつり、記念碑を建てているところも多い。

つつじヶ丘住宅地(三田ガーデンタウン) 三田ニュータウンと同時期に開発された民間が事業主体となった住宅団地。約 2700 戸。事業主体は大倉建設。平成 2(1991)年オープン。**北摂三田テクノパーク** 都市再生機構が開発した工業団地。総面積 136.1ha。44 社が進出。北西部に都市再生機構から移管を受けた大和ハウス工業が第 2 テクノパークを開発中、総面積約 97ha。